

令和５年度 第２回八幡地域協議会 要録

日 時：令和５年１０月１６日（月） １９時００分 ～ ２０時００分

場 所：郡上市役所本庁舎 ４階 大会議室

出席者：（八幡地域協議会委員）

鈴木美好、石山加代子、兼山勝治、山下優子、河合 研、鷲見耕平、村瀬正人、
細川竜弥、池戸郁夫、先山祥一、武藤里恵、後藤正和

（オブザーバー）

渡辺友三

（事務局）

清水八幡振興統括、三島政策推進課長、木嶋課長補佐、牧野主任

欠席者：（八幡地域協議会委員）

小林与志夫、坪井壽人、加藤徳光、山田昌昭、荒井和彦、山田篤司、横井 哲

傍聴者：なし

（開会 １９時００分）

進行：三島課長

開会

三島課長

開会に先立ち、郡上市地域協議会設置規則第７条第４項に、会議は委員の２分の１以上の出席で成立するとある。委員１９名現在１２名であるので、２分の１以上となり、この会議は成立することを報告する。

１．あいさつ

八幡振興統括 あいさつ

会長 あいさつ

２．協議事項

（進行を会長に交代）

１）先進地視察先（案）について

事務局より、資料に基づき説明。

事務局：前回の協議会で、事業計画に先進地視察を含めていたが、その内容を具体化した。この視察先については、事前に事務局案を先山会長と加藤副会長に相談させていただく形で今回の視察先の決定を行った。静岡県浜松市の NPO 法人夢未来くんまが運営する「道の駅くんま水車の里」を視察することとして、11月19日（日）で調整をしている。

委員 ①：視察日はもう動かせないか。

事務局：視察日はこちらですでに先方と調整している。

委員 ②：この地域は、資料の中では 4 つの部会でそれぞれ活動しているのか。

事務局：水車部、しあわせ部、いきがい部、ふるさと部の 4 つの部会がある。水車部は道の駅くんま水車の里の店などを運営するのが水車部で、しあわせ部は例えば独居高齢者の給食サービスを行い、いきがい部は地域活動を主に実施していると聞いている。ふるさと部は環境保全などを各分野で行っており、各分野のそれぞれの地域活動に道の駅での利益を使用していると伺っている。

委員 ②：それらを統合した形で NPO 法人化していたということである。その持っていく方も非常に参考になると思う。

2) 課題検討部会（案）について

事務局より、資料に基づき説明。

事務局：前回の協議会において、八幡地域全体の課題とその解決策等の協議や活動を実施していくことを目的とした組織として、課題検討部会の設置を承認いただいた。

その際に部会のメンバーにおいては、正副会長と協議して決定することとしていたため、各地域の地域づくり団体の代表者を除く委員を対象に 11 名の委員を課題検討部会の委員とする案も添付させていただいている。

主な部会の流れとして、事前アンケートを協議会の全委員に回答いただきたいと考えている。アンケートには将来の八幡地域、10 年後を考えたときに、八幡地域でこれが課題になるのではないかなどを記入していただき、事務局へ返信していただきたい。それらを事務局でまとめ、正副会長会で、粗々といくつかにまとめさせていただく。

課題検討部会の初回に、事例紹介も交えながら正副会長会で粗くまとめた課題について意見交換等を行い、その場で 2 つ程度に課題を絞り込んでいきたいと考えている。

2 回目は、初回で出てきた課題に対して、チームという形でメンバーを分け、その課題について一緒に協議をしていき、その中で導き出した答えを、来年度以降の八幡地域協議会の計画に盛り込んでいきたい。

開催のスケジュール案として、12 月ぐらいに初回の課題検討部会を開催し、翌月の 1 月に第 2 回と考えている。

委員 ③：あくまでこれは八幡地域協議会内で収まる範疇内での解釈でよろしいか。アンケートに答えるとあるが、八幡地域協議会として今後取り組んでいることに関してということなのか、八幡全体のことを考えてということなのか。考えるにあたってどれぐらいの規模のことを考えているのか。

事務局：八幡地域全体をベースに考えている。ひとつひとつの集落等でも問題はあろうと思うが、それも交えた上での八幡地域全体での課題を抽出するべきであり、それに向けてこの地域協議会で何かできるかを考えていくのを優先したい。

事務局：事務局も委員が何を課題にしているか計りかねる部分はある。今までこういう取り組み自体がなかったのが、協議会の枠を超えるか、どこまでが枠かわからないが、将来に渡って八幡地域が、これまで以上にいい形で、この地域全体が結束を持って取り組みできるような内容に向かっていくようにする何かきっかけになればいいなというところは思っている。その辺りはいずれこの先のワークショップなどを行う時にも、委員からご意見をいただき、いろんな課題にあるばんやりとしたものを少しずつ取り除くようにしていけたらいいなというふうに思っている。

委員 ③：今までの地域協議会は、地域の各行事に対しての予算が出ていて、それで運営していたこともあり、予算を結構毎回使いきりでやっていたと思うが、八幡地域協議会で新しく使っていくとなると、そこの絞りも出てくるのか。

事務局：今回の課題の洗い出しを行ったことによって、協議の結果出てきた提案を、しっかり来年度の事業に落とし込みができればということも思っているため、それぞれの地区の方で必要になってくる取り組みの部分とあわせて、全体として予算をつけて取り組む必要があれば、その辺りも委員と協議をさせていただきたいと考えている。

委員 ②：八幡地域の協議会は、他の地域とは違った形で、今まで八幡地域内のそれぞれの各地区の活動について、交流し合ったり、予算を配分したりというようなことで、この場で認め合っていくというような形で進めてきたが、せっかく協議会があり、協議会の委員はそれぞれの立場で活躍されている方ばかりなので、この協議会としてもまた何かひとつの方向づけをしていきたいという思いが、前回までの会議の中で出ていたと思う。

委員 ④：協議した結果出てきた提案を来年度の八幡地域協議会の計画に盛り込んでいくとあるが、各単会の計画というのは、12月ぐらいから翌年度の計画を立てるという形になっている。各単会がそれぞれの計画を立て始めた後に、地域協議会としての提案や計画が後から被さってくるという形になっている。その整合性をとるのは難しいのではないかと。地域協議会での提案を来年度以降はちょっと早めて、それを各単会にも盛り込んでいただけるようなスケジュールに変えたらどうかと思う。

事務局：各単会で予算を使っていた事業を出していただくスケジュールと、事務局が全体で予算を活用していく事業の部分が、しっかり同時に協議がうまくできるような形のスケジュール感を持って進めさせていただきたいと思っている。今年度の取り組みについては、まずはこの形で進めていただきたいので、ご了解をいただきたい。

委員 ②：単年で解決するということではできないものではないと思う。5年、10年後、或いはその先を見越してどのようにしていくかだと思うので、各地区の活動と違った形で出されていくと思うため、その辺をご理解いただきたいと思います。

3) 活動交付金 各単会の申請の流れ(案)について

事務局より、資料に基づき説明。

事務局：本年度も各単会から3月に事業計画等を事務局に提出していただいております、5月にある全体会議の場をもって事業の承認をしていた。その結果4月、5月の活動については、事業承認

を得られないということから、事業ができない状態になっている。それらを改善するものとして、今まで3月末に提出していただいた申請書を1月、2月ぐらいに事業計画等を事務局に出していただくようにする。また、5月の半ばに開催していた全体会議での承認を3月の全体会議の場をもって次年度の活動交付金の事業について協議・承認をする。

これにより4月1日から各単会で活動が可能となり、1年のうち10ヶ月しか活動できなかったところが、1年丸々を使っての活動ができるようになる。

委員 ①:今の事業を3月まで見ると、その間は重複することになるのか。

事務局:事業の重複というよりも翌年度の4月から新しい年度に始まる事業も計画するということになる。確かにまだ事業が完了していないのに翌年度の事業という部分が一部あるかと思うが、それを見越した上で事業計画書の提出と考えている。

事務局:いずれにしても早い時期からの取り組みは必要にはなってくる。ただ、事務局が説明したが、これまでは会議自体が5月で、年度が始まって2ヵ月経ってからしか事業の全体の承認ができていなかったという部分を大きく変えられるのが、この令和5年度のうちに、令和6年度の4月から活動していただく部分の予算を大きく決めて、取り組みをしていただくという内容になる。4月中に活動をしたい計画を考えている単会にとってみると、かなりスピード感を持った事業の取り組みに繋がると思っているので、ぜひこれからこのような流れで、事業を考え、スケジュール感を持った形で取り組みをしていただきたい。

委員 ②:今まで予算が通るのか分からないまま進めていることがあったりして、できるだけ早く実施していただいて、資金として使っていただきたいということでこの案が出されている。

委員 ①:予算との整合性はいいが、例えば郡上市として予算はもう確保しているのか。

事務局:もちろん議会で予算の承認をいただくというのは前提ではあるが、地域協議会は今年度と同等の金額を予算要求しているので、それを前提でお願いしたい。

3. その他

事務局:次回は12月に第3回を予定している。先進地視察の報告と、活動交付金の交付している各単会の中間報告を行う予定である。課題検討部会については、事務局よりアンケートを送付し、正副会長会を実施した上で、改めて対象の委員に案内する。

事務局:先進地視察について、相手側に自分たちでこれを課題とされていて、これを聞きたいという質問等を事務局に連絡をいただきたい。地域協議会でこれを質問したいというものをあらかじめ取りまとめて、先方に届けた上で、現場に向かいたいと思っている。聞きたいことに的確に回答いただけるような準備をした上で、現地へ赴こうと思っているので、出席、欠席にかかわらず、これが聞きたいという質問の内容を寄せていただきたい。

委員 ①:地域が振興のために、例えばいろいろ作っているが、だんだんなくなったりしている。今、私の地域では地域のための会社を運営しているが、地域でもなかなかそういう機運が高まってこない。あれは金儲けでやっているみたいな感じにみられる部分があるが、この視察先は上手にやっているような気がする。もし余剰金でやれば、他のことに使うなど何かやっていくといいかと思っている。

事務局:そのような地域の事情というものを踏まえて、例えばその会社がどのようなことができるのかということを地元の方でも考えられる。もしくは、この会社を使ってこのようなことができるので

はないか。それにつなげるために、実際に視察先で立ち上げの経過やどのようなことをしてこのように変わってきたのかというところを生に感じてもらい、何が自分たちに活かせるかというところもあわせて、このようなこと聞いてみたいというようなことも事前に質問をいただければ、視察先も私たちはこうしたという回答も期待できるというところで、本音の質問を書いてもらえればありがたい。

委員 ①：今のその夢に向かって地域のために会社を立ち上げた人の年齢が一巡している。特に今、人不足、気持ちのある人がいない状態になっているので、何かないかと思う。

事務局：先ほどのアンケートで今地域の問題として、その会社の活用、継続というところがあるとすれば、そのような組織を使って、地域を超えた何か活動ができないかというようなこともアンケートでご意見として出してもらっても構わない。

事務局：実は今回 4 つの案を正副会長と一緒に検討させてもらった上で、ここが一番よかろうというところを選んだが、年齢が一巡しているというところはあって、例えばシンボリックな中核になっていた施設が、そこが閉じてしまっていることや、歳をとって人も少なくなり、登り調子だったところが、今は逆に下り坂になってきている。好事例であってもそのような取り組みとか地域もあった。この視察先は幸い長続きで、おそらく次の世代も何らかの関わりが持っていると思うので、今地域で課題になっていることの何かヒントは持っているかと思う。直接そのまま同じことはできないかもしれないが、どのように思いを共有されたかというような手法などは参考になる。

閉会

(閉会 20時00分)